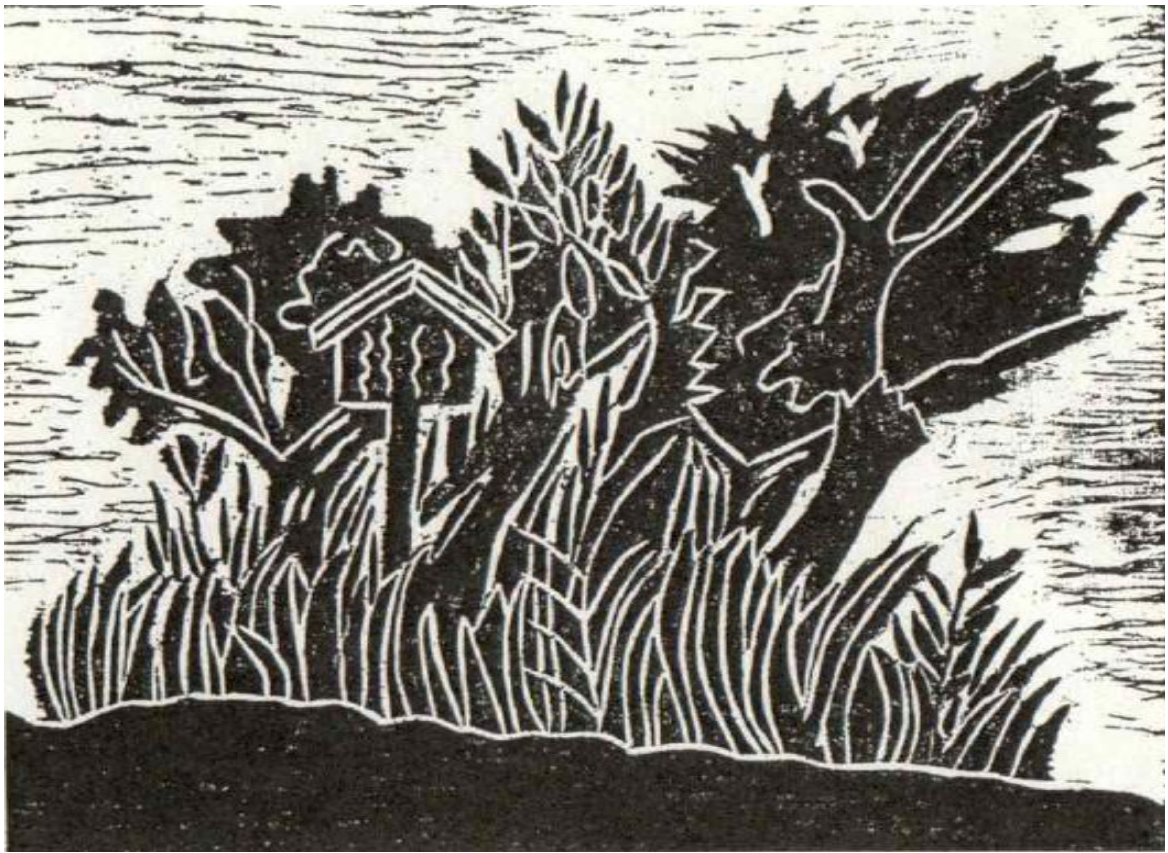


蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

みなもとのよしとも げんじしま  
第13回 源義朝と源氏島



(『蟹江町制100年記念 蟹江むかしものがたり』(蟹江町、1988年)より)

今回のおうちミュージアムは、<sup>みなもとのよしとも</sup>源義朝と彼が<sup>た</sup>立ち寄ったと<sup>つた</sup>伝わる<sup>げんじしま</sup>源氏島に  
ついて<sup>しょうかい</sup>紹介します。

みなもとのよしとも

## ① 源義朝ってどんな人？

源義朝は、今からおよそ 900 年前の平安時代に活躍した武士です。鎌倉幕府をひらいた源頼朝や、源平合戦で活躍した源義経は、彼の子どもです。

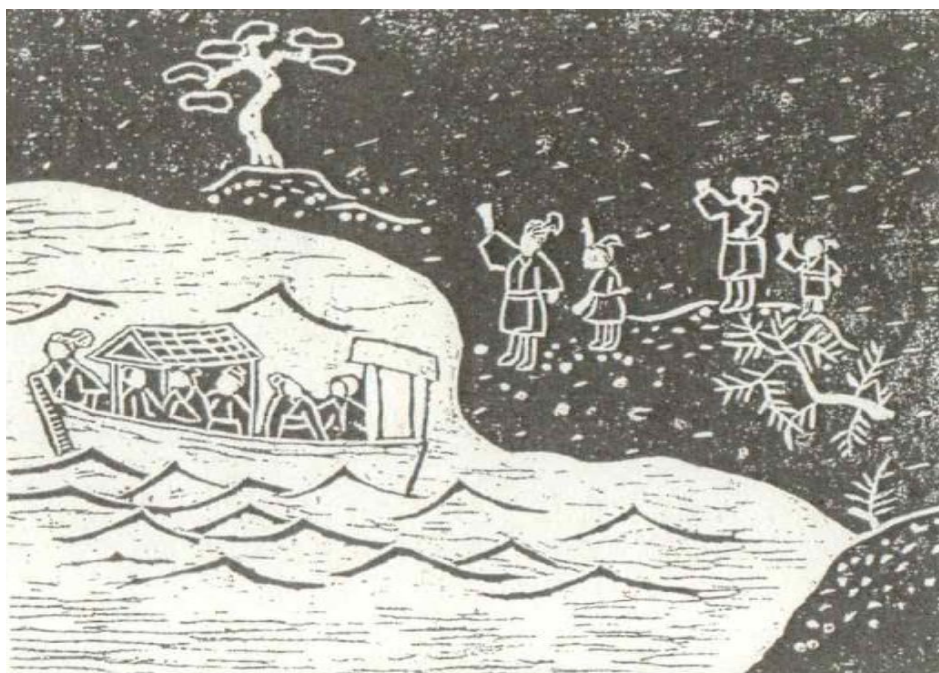
義朝が活躍していたころ、源氏と平氏という2つの武士団が大きな力をもっていました。義朝は、その源氏の棟梁(一番偉い人)でした。もう一方の平家の棟梁は、平清盛という人です。

1159年(平治元年)12月、義朝は京都で平清盛と戦います。この戦いを「平治の乱」といいます。義朝はがんばって戦いますが、負けてしまいました。

## ② 蟹江に立ち寄る義朝一向

「平治の乱」で負けた義朝は、わずか数人の仲間たちと知多半島の内海へ逃げていきます。義朝たちは敵に見つからないように京都から雪山を進み、山から舟で川をくだると、伊勢湾から内海を目指しました。

このころの蟹江町の辺りは南に海が広がり、小島がたくさんあったそうです。義朝たちが小島の一つに立ち寄ったとき、小島の漁師は義朝たちをとても親切にもてなした、と伝えられています。義朝は漁師にお礼をいうと、また舟に乗って内海へと向かいました。



(『蟹江町制 100 年記念 蟹江むかしのものがたり』(蟹江町、1988 年)より )

### ③ よしとも さいご 義朝の最期

無事に内海までたどりついた義朝たちは、そこで長田忠致という人に迎えられます。京都から逃げ続けた義朝は、ようやく一息つくことができました。

しかし、義朝は長田忠致に裏切られ、殺されてしまいました。義朝は敵ではなく、味方に討たれるという、悲しい最期を遂げたのです。

### げんじしまでんせつ げんじづか ○源氏島伝説と源氏塚

義朝たちが立ち寄った小島は、いつの頃からか「源氏島」とよばれるようになりました。江戸時代になると、海は埋め立てられて源氏島は陸続きになりました。しかし「源氏島」という名前は、今でも残っています。

かつて源氏島のあったとされる場所は「源氏塚公園」として整備され、町民の憩いの場となっています。



「源氏島」の名前が残る交差点



「源氏塚公園」の石碑

### げんじ へいし ご ○源氏と平氏のその後

義朝が平清盛によって倒されたあと、平氏一族の力はどんどん大きくなりました。その一方で、平氏に不満をもつ人達も増えていきました。

こうしたなか、義朝の息子・頼朝をはじめとする各地の源氏たちが、平氏を倒すために動き出すこととなります。

この続きは次回の「源義仲と龍照院」で紹介いたします。お楽しみに！